



# 広島がん高精度放射線治療センター（HIPRAC） オープンカンファレンス（脳腫瘍）

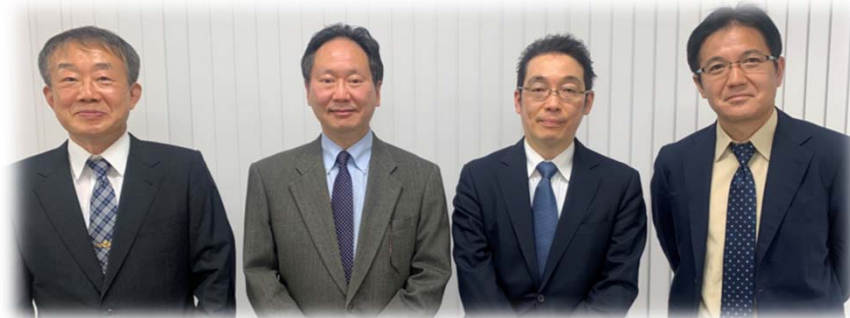
2022年5月9日（月）19時00分～ Web開催

## 【開催経緯】

センターでは、開設以前からこれまで、各病院より選出された委員及びオブザーバーとHIPRAC医師で、適応疾患や治療プロトコールについて検討する「臓器別検討会議」を定期的で開催してまいりました。センターに紹介していただく患者さんの状況が安定してきたことから、より多くの医師や医療従事者の皆様へ、HIPRACのことや各臓器のがん治療における最新情報（手術・放射線治療・薬物療法等）を提供する場を作るべく、オープンカンファレンスを開催する運びとなりました。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、開催方法はWebといたしました。

【左から2番目】  
権丈副センター長



【右から2番目】  
山崎診療准教授

【一番左】  
永田センター長

【一番右】  
堀江教授

当日は、永田センター長からHIPRACの現状を報告後、堀江座長の進行により、当センターの権丈副センター長から「HIPRACにおける脳腫瘍に対する放射線治療」と題して講演を行い、次に、広島大学病院 脳神経外科 山崎診療准教授から「脳腫瘍治療における最近の動向」と題して講演を行っていただきました。

最後に、がん診療連携拠点病院や診療所等から参加いただいた委員及びオブザーバーによる意見交換を行いました。

参加者は71名であり、盛会裏に終了することができました。当日の様子をご紹介します。

## 《HIPRACの現状について》

19時00分～19時15分

◆報告 広島がん高精度放射線治療センター 永田 靖 センター長

## 講演1 《HIPRACで行っている脳腫瘍に対する放射線治療》

19時15分～19時35分

◆講師 広島がん高精度放射線治療センター 権丈 雅浩 副センター長



- HIPRACで行う高精度放射線治療として意義の高い脳腫瘍疾患には、転移性脳腫瘍と原発性脳腫瘍がある。
- HIPRACでは脳腫瘍に対し、IMRT/VMATを行っている。小さい標的に対してはSRT/SRSを用いて治療を行っている。この放射線治療のベースとなるものがIGRTであり、脳腫瘍に対しては全例使用している。
- HIPRACには入院施設がないため、病態として①全身状態が比較的安定、②外来通院可能、③入院を要する併用化学療法がない場合に放射線治療の適応となる。
- 2015年10月から2022年3月までのHIPRAC治療患者数は、新規放射線治療開始患者（全例）4237例のうち、脳脊髄腫瘍が210例（5%）で、その内訳は原発性脳腫瘍が44例、脊髄腫瘍が4例、転移性脳腫瘍が162例であった。
- 転移性脳腫瘍に対する定位照射は、腫瘍長径・腫瘍体積に応じて、線量と分割を変更しており、障害発生リスクが高い病変・症例には一回線量を減じている。

脳腫瘍の診断と治療方針の決定、HIPRACへのご紹介、フォローアップとその後の治療への対応をいただいている諸先生方にお礼を申し上げます。今後ともHIPRACにご支援とご指導を賜りますようお願いいたします。

## 講演2 《脳腫瘍治療における最近の動向》

19時35分～20時15分

◆講師 広島大学病院 脳神経外科 診療准教授 山崎 文之 先生

### ☆転移性脳腫瘍（肺癌のガイドラインや最近の進歩と工夫）

- ・術後全摘出できていれば、全脳照射は行わないということが重要。
- ・手術後残存の可能性がある場合は、摘出腔を含めた局所照射は選択肢となる。
- ・10個までは定位照射を検討する。
- ・EGFR/ALKのドライバー変異があれば、その阻害剤に期待できる。
- ・VEGF阻害剤は放射線との相性が良いため、抗浮腫効果と嚢胞縮小効果を活用しながら治療を行う。

### ☆中枢神経原発悪性リンパ腫（BTK阻害剤のベレキシブル）

- ・悪性リンパ腫の治療手段として、以前は大量メトトレキサート療法が選択されていたが、R-MPV療法や地固めの大量Ara-C療法が選択されるようになってきている。
- ・2020年3月にチオテパ、チラブルチニブが、2021年3月にベンダムスチンが認可されており、現在はこのような薬物を組み合わせた治療法も選択肢となっている。
- ・チラブルチニブはブルトン型チロシンキナーゼ阻害薬であり、BTKをターゲットにすることを目的に開発された。現時点では、初発には使用できず、再発または難治性のPCNSLに有効とされている。



### ☆脳腫瘍におけるがんゲノム医療の現状と課題

- ・脳腫瘍においても個々の腫瘍のゲノムの特性を理解し、最適な治療法を選択する precision cancer medicine が期待されている。
- ・脳腫瘍におけるがんゲノム医療は、再発後の経過が速く、治療に結びつきにくく、若年脳腫瘍では germline 変異が発見される可能性があるため、考慮が必要となる。また、診断の確定には有用だが、治療に結びつきにくいという課題がある。

山崎先生には、最新の脳腫瘍治療の情報をご提供いただき、放射線治療医や放射線治療に従事するスタッフにとって大変勉強になる講演となりました。脳神経外科と放射線治療科が引き続き連携強化を図り、患者さんにとって最善の治療ができる体制を構築していきたいと思っております。

## 《各施設からの現状報告》

20時15分～20時30分

広島がん高精度放射線治療センター運営協議会 臓器別検討会議の委員・オブザーバーより、各施設の現状等についてご報告いただき、センターとの連携について意見交換を行いました。

いつも患者さんを紹介いただいております先生方からの貴重なご意見を参考に、今後も安全で質の高い治療を提供できるように精進して参ります。

### ◎この度参加いただいた委員及びオブザーバーの所属医療機関一覧

- ◆脳神経外科：広島大学病院、県立広島病院、広島赤十字・原爆病院、安佐市民病院、JR広島病院、呉医療センター、東広島医療センター、JA尾道総合病院、市立三次中央病院、呉共済病院、マツダ病院、済生会広島病院
- ◆放射線治療科：広島大学病院、県立広島病院、広島赤十字・原爆病院  
広島がん高精度放射線治療センター

がん治療についての最新情報を提供する場として、このようなオープンカンファレンスを引き続き開催いたします。今後も、**各種がんのオープンカンファレンス**の開催を予定しております。開催が決定次第、ご案内を当センターHPに掲載しますので、皆様からのお申込みをお待ちしております。



#### 【問い合わせ先】

〒732-0057 広島県広島市東区二葉の里三丁目2番2号

(TEL) 082-263-1330 (FAX) 082-260-1331

(MAIL) office@hiprac.jp (HP) <http://hiprac.jp/>

がん医療を  
より高度に  
より優しく



# HIPRAC

Hiroshima High-Precision Radiotherapy Cancer Center  
広島がん高精度放射線治療センター【ハイブラック】